

キールボートパーク構想を進めていきます。

2022.10.1

キールボート強化委員会

委員長 久保田悟

はじめまして、キールボート強化委員会の久保田です。

今年からキールボート強化委員会の担当を委員長としてさせていただくにあたり
皆さんにご意見、ご支援を頂きたく、ご挨拶させていただきます。

当委員会は、今まで通り学生マッチの運営サポート、NYYC のインビテーションカップ
など海外からの招待レースへの代表チーム選抜などを行っていきます。

それに加えて、この委員会の発足時から現 JSAF 中澤副会長と相談してきた**キールボートパーク構想の後押しをしていくつもりです。**

当委員会で、海外の著名ヨットクラブから招待されるレースへの代表選考をして気付く
のは、**NYYCをはじめ世界の名門クラブは、同型のキールボートを10数艇所有し世界や国内クラブを招いて定期的にレースを開催しているということです。**

日常的には、この同型艇を活用しクラブレースで技術を磨き、懇親を深めています。

また、このようにクラブ所有の船を安く使えることは、特にユース世代が活動しやすい環境
を提供できています。

しかし、**日本においてのマリーナ事業は、オーナー所有の船の駐船料で売り上げを作る
不動産ビジネスです。**

それを変えることは困難ですが、**欧米のようにヨットクラブが主体となり、船置き場、
船の管理、レースなどを運営していく、キッカケにキールボートパーク構想が役立つことを
期待しています。**

日本にも、キールボートパーク的なものは存在します。

たとえば、葉山マリーナの NST (Y30)、和歌山セーリングセンター (J/24)、三河三津マリーナ (J/24)、宮城県七ヶ浜 (Y23)、鹿児島島谷山港 (ミニトン) などです。

当委員会としては、これらの活動をサポートして、それぞれの地元に根付いたヨットクラブ
を発足、活性化させ、そののちにクラブ同士の対抗戦などに広がっていくことを夢見ている
ます。

高校対抗のインターハイ、大学対抗のインカレ、チームオーナー対抗のミドルボート、ジ
ャパンカップに加え、**地元愛に根付いたヨットクラブ対抗戦、そうサッカーの Jリーグのように
俺らが町のヨットチーム>です。**これはキールボートに限ったことではないので

皆さんと知恵と力をあわせて前進していきたいと考えています。

よろしく申し上げます。

以上